



# 太宰府観光が이드まっふ

発行 2023年9月

## 太宰府のおみやげ

**太宰府名物 梅ヶ枝餅**  
もち米とうるち米で作った生地に小豆あんを包み、こんがり焼上げたお餅です。

浄妙尼という老女が不遇の日々を送っていた道真公を哀れみ、餅に梅の枝を添えて送ったのが由来といわれています。

<販売場所>天満宮参道・神苑など



**太宰府献上願塩**

古代天草から大宰府へ貢進されたといわれる塩を現代に蘇らせました。

現在では、太宰府天満宮に奉納・献上され、天満宮で行われる全ての神事に使用されています。



**太宰府の民芸品 本鶯**



天神様のお使いでもあり、幸運を招く鳥といわれている鶯が、木にとり羽を広げた姿を、木彫りで表しています。



毎年1月7日には、太宰府天満宮の境内で木鶯を互いに取り替え、一年間ついた嘘や災いを天神さまの誠に取り替えて幸運をいただく「つそ替え神事」が行われます。

<販売場所>天満宮参道など

## 太宰府天満宮の行事



- 1月 歳旦祭
- 2月 節分厄除大祭(豆まき神事)
- 3月 梅花祭
- 4月 厄晴れひょうたん焼納祭
- 5月 梅の若葉見ころ
- 6月 花菖蒲見ころ
- 7月 七夕の宴
- 8月 夏の天神まつり(千灯明)
- 9月 注連(しめ)打奉納相摸
- 10月 特別受験合格祈願大祭
- 11月 秋思祭
- 12月 納天神祭・古神札焼納祭

# 太宰府天満宮 門前町ご案内

### インフォメーション

**太宰府市観光案内所**  
西鉄太宰府駅構内  
TEL.092-925-1880  
車いす・ペーパークー貸出し  
(一社)太宰府観光協会  
TEL.092-925-1899

**太宰府館**  
太宰府館(水曜休館日)  
TEL.092-918-8700  
車いす貸出し

●梅ヶ枝餅焼き体験 ●本うそ絵付け体験

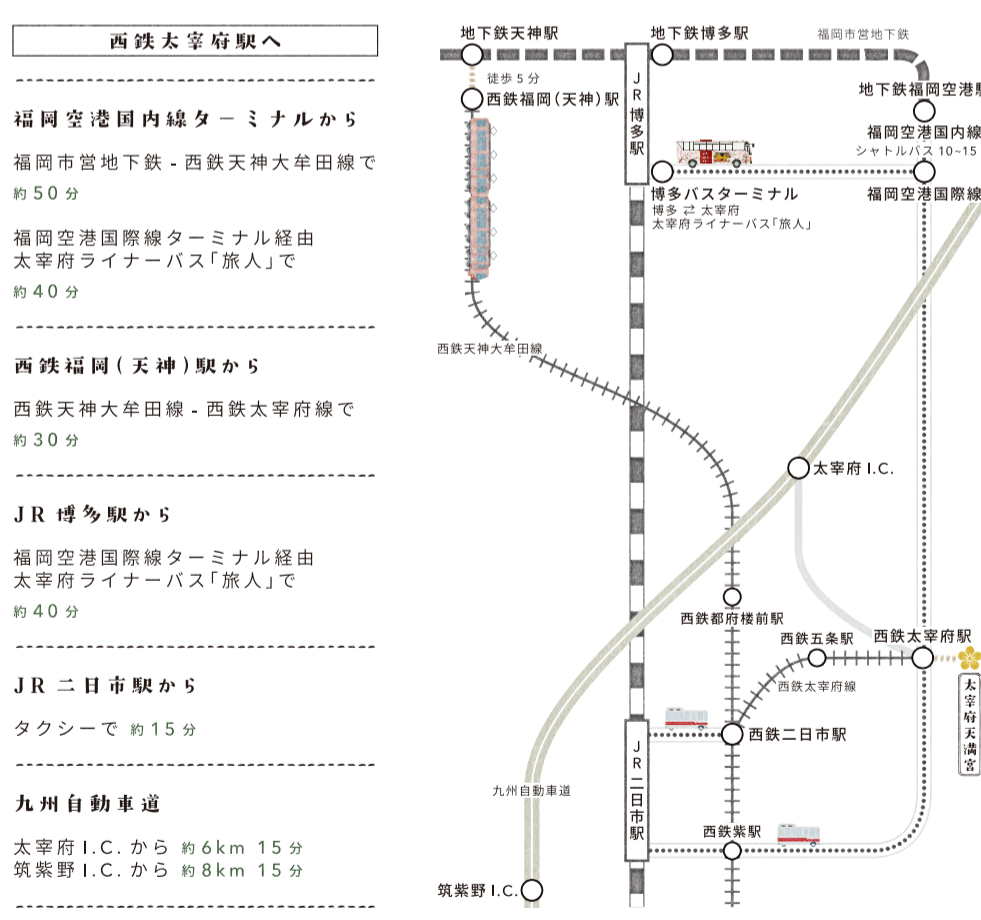
体験はお電話にて要予約

## 観光施設利用ご案内

2023年9月現在の情報です。

<p><b>太宰府天満宮</b> 092-922-8225 開門 春分の日～秋分の日前日 6:00 秋分の日～春分の日前日 6:30 閉門 4～5月 19:00 6～8月 19:30 9～11月 19:00 12～3月 18:30 年末年始(12/31～1/3) 昼夜閉門 ※但し、イベントのある日はこの限りではない。要確認</p>	<p><b>九州国立博物館</b> 050-5542-8600 入館料 常設展：一般700円・大学生350円 ※特別展は別料金 ※障害者とその介護者1名、高校生、18歳未満、70歳以上は無料 休館日 毎週月曜日(祝日・振替休日の時は翌日)・年末</p>
<p><b>宝物殿(太宰府天満宮)</b> 092-922-8225 開館 9:00～16:30(入館は16:00まで) 入館料 大人500円(400円) 高大学生200円(100円) 小中学生100円(50円) ※1)内は団体30名以上 休館日 毎週月曜日(祝日・振替休日は開館)</p>	<p><b>菅公歴史館(太宰府天満宮)</b> 092-922-8225 開館 9:00～16:30(入館は16:00まで) 入館料 大人200円(150円) 高大学生150円(80円) 小中学生100円(50円) ※1)内は団体30名以上 休館日 毎週火曜日・水曜日</p>
<p><b>太宰府天満宮 駐車センター</b> 092-924-2843 時間 8:00～18:00 年末年始(12/31～1/3) 終日営業 ※但し、イベントのある日はこの限りではない。要確認 料金 大型バス=2,000円・マイクロバス=1,300円 普通車=500円・バイク=250円</p>	<p><b>ださいふ遊園地</b> 092-922-3551 時間 平日 10:30～16:30 土日祝日 10:00～17:00 (期間によって変わる) 入館料 大人600円(500円)・65才～500円(400円) 3才～小学生400円(300円) ※1)内は団体20名以上 休館日 期間によって変わる。要確認</p>
<p><b>宝満宮竈門神社</b> 092-922-4106 お札・お守授与所 8:30～18:00 年中無休</p>	<p><b>坂本八幡宮</b> 092-928-3100 氏子会受付 10:00～16:00 土日祝のみ(※状況により変更あり)</p>
<p><b>大宰府展示館</b> 092-922-7811 開館 9:00～16:30 休館日 毎週月曜日(祝日・振替休日の時は翌日) 12/28～1/4 入館料 一般200円・高大学生100円・小中学生無料</p>	<p><b>文化ふれあい館</b> 092-928-0800 開館 9:00～17:00 休館日 毎週月曜日(祝日・振替休日の時は翌日) 12/28～1/4</p>
<p><b>観世音寺蔵庫(宝蔵)</b> 092-922-1811 拝観料 大人500円(300円) 高大学生300円(200円) 小中学生150円(100円) ※1)内は団体20名以上 休館日 年中無休</p>	<p><b>水城館(水城東門跡)</b> 092-555-8455 開館 9:00～16:30 休館日 毎週月曜日(祝日・振替休日の時は翌日) 12/28～1/4</p>
<p><b>太宰府館(地域活性化複合施設)</b> 092-918-8700 開館 10:00～18:00 休館日 毎週水曜日(祝日・振替休日の時は翌日)</p>	<p>発行元：(一社)太宰府観光協会 〒818-0117 福岡県太宰府市市府3-2-3 TEL.092-925-1899/FAX.092-925-1866 このガイドマップは、発行と変更の権利を保有しています。</p>

## 交通案内



**凡例**

- 西鉄電車
- 福岡市営地下鉄
- JR線
- バス
- 九州自動車道
- 一般道
- 徒歩

**太宰府ライナーバス「旅人」**

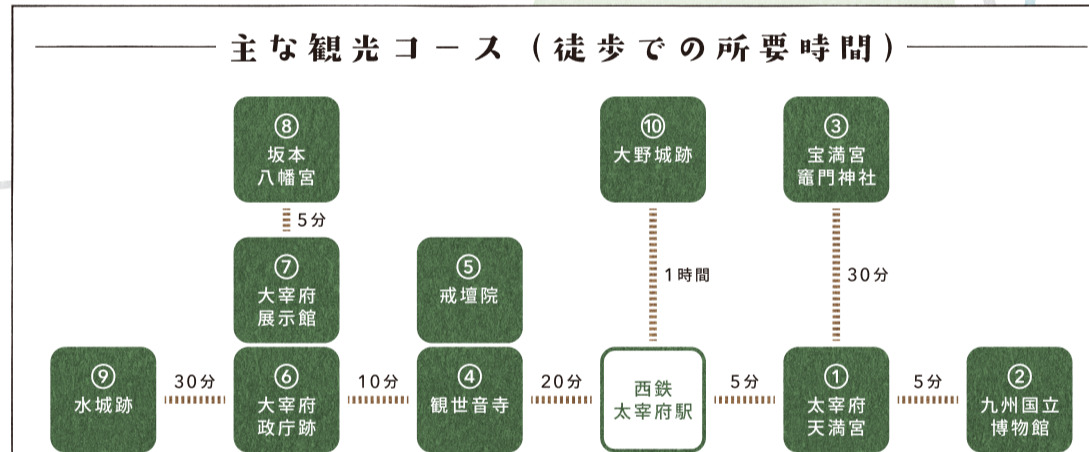
太宰府駅前バス停より

太宰府 ← 乗換不要 → 博多 (福岡空港国際線ターミナル) 40分

**凡例**

- トイレ
- 身障者用トイレ
- オストメイト対応トイレ
- 授乳室
- おむつ交換台
- 駐車場
- 車いす専用駐車場
- 車いす貸出し
- 喫煙所
- コンビニエンスストア
- 梅ヶ枝餅
- お食事
- おみやげ
- なごみ
- その他

# 太宰府 広域マップ



### 太宰府市観光交通ガイド

駐車場の満空情報が確認できます。 <http://dazaifucity-parking.com/pcf/>

### 太宰府市コミュニティバス「まほろば号」

全区間一律 ¥100 | 1日フリー乗車券 ¥300

「まほろば号」バスルート

### レンタサイクル

西鉄太宰府駅にて受付(受付時間)9:00~18:00 | お問合せ: 西鉄二日市駅 貸出料金: 1日500円(電動アシスト付きは1日800円) | TEL.092-922-2024

### 太宰府市公衆無線LAN「Dazaifu\_City\_WiFi」

①太宰府天満宮 ①太宰府館 ①太宰府市観光案内所 ③宝満宮龍門神社  
④観世音寺 ⑤戒壇院 ⑥大宰府政庁跡 ⑦大宰府展示館 ⑧坂本八幡宮  
⑨水城跡(東門) ⑩大野城跡(焼米ヶ原) ⑫文化ふれあい館 ⑬国分寺跡 ⑭客館跡

- ### 凡例
- トイレ
  - 身障者用トイレ
  - オストメイト対応トイレ
  - 車いす用駐車場
  - 駐車場
  - 授乳室
  - おむつ交換台
  - コンビニエンスストア
- まほろば号バスルート  
歴史の散歩道  
交差点名

<p><b>16 榎社</b></p> <p>道真公が大宰府着任から亡くなるまでの2年間を過ごした配所「府南館」跡と伝えられている。</p>	<p><b>14 刈萱の関跡</b></p> <p>大宰府の街の出入口にあたり、昔、関所が置かれていたといわれている。</p>	<p><b>12 文化ふれあい館</b></p> <p>太宰府の歴史や文化を紹介する複合施設で、史跡散策の拠点でもあり休息もできる。</p>	<p><b>10 大野城跡</b></p> <p>大宰府の北の守りとして朝鮮の山城を手本に、665年に築かれた。山頂は8kmにわたり土塁や石垣で囲まれ、現在も倉庫跡と思われる礎石が点在している。国の特別史跡</p>	<p><b>9 水城跡</b></p> <p>664年に唐・新羅(しらぎ)の侵襲に備え築かれた防衛施設(人工の土塁)。全長1.2kmに及ぶ。国の特別史跡</p>	<p><b>8 坂本八幡宮</b></p> <p>坂本地区の土地神・産土神として崇拝される。大伴旅人部跡とされ「梅花の家」が開かれた場所として知られる。(講談あり)先帝「令和」は梅花の家で築かれた梅花の歌三十三首の序文より引用された。</p>	<p><b>7 大宰府展示館</b></p> <p>大宰府政庁跡で発掘された遺構や出土品をはじめ、政府の復元模型や令和ゆかりの「梅花の家」再現シラマ(製作:山村延博)などが展示され、大宰府の歴史・文化を分かりやすく紹介している。</p>	<p><b>6 大宰府政庁跡</b></p> <p>奈良・平安時代にかけて、九州を治め、外交・軍事・経済を担った役所大宰府が置かれた。ここはその中核。唐僧鑑真(かんじん)が来日後、授戒を行ったことも知られている。</p>	<p><b>5 戒壇院</b></p> <p>奈良の東大寺、下野の薬師寺と並んで日本三戒壇のひとつ。唐僧鑑真(かんじん)が来日後、授戒を行ったことも知られている。</p>	<p><b>4 観世音寺</b></p> <p>筑紫で崩壊されたご生母青明(さいめい)の御霊を祀るため天智(てんじ)天皇が創建。日本最古といわれる梵鐘(国宝)、宝篋に安置された仏像(重要文化財)は必見。国の史跡</p>	<p><b>3 宝満宮龍門神社</b></p> <p>神武天皇のご生母、玉依姫命(たまよりひめのみこと)を祀り、縁結びの神様として信仰が厚い。「学問・芸術・文化芸術の神様」として、広く世の御祈願を集めている。現在、御本殿が124年ぶりの大改修工事中につき仮殿でのご参拝。</p>	<p><b>2 九州国立博物館</b></p> <p>東京・京都・奈良に次ぐ4番目の国立博物館。日本文化の形成をアジヤ史的観点から捉える」というコンセプトを持つ。現在、御本殿が124年ぶりの大改修工事中につき仮殿でのご参拝。</p>	<p><b>1 太宰府天満宮</b></p> <p>菅原道真公(天神さま)の御墓所の上に御社殿を造営し、その御邸をお祀りしている全国天満宮の総本宮。「学問・芸術・文化芸術の神様」として、広く世の御祈願を集めている。現在、御本殿が124年ぶりの大改修工事中につき仮殿でのご参拝。</p>
--	---	--	---	--	---	--	--	---	---	---	--	--

「ださいふ」の表記について  
歴史上の役所は大宰府、行政上の名等については太宰府と書く事が慣用化されています。

例) 大 太宰府政庁跡 太宰府市役所  
本誌でもこれにいたしました。